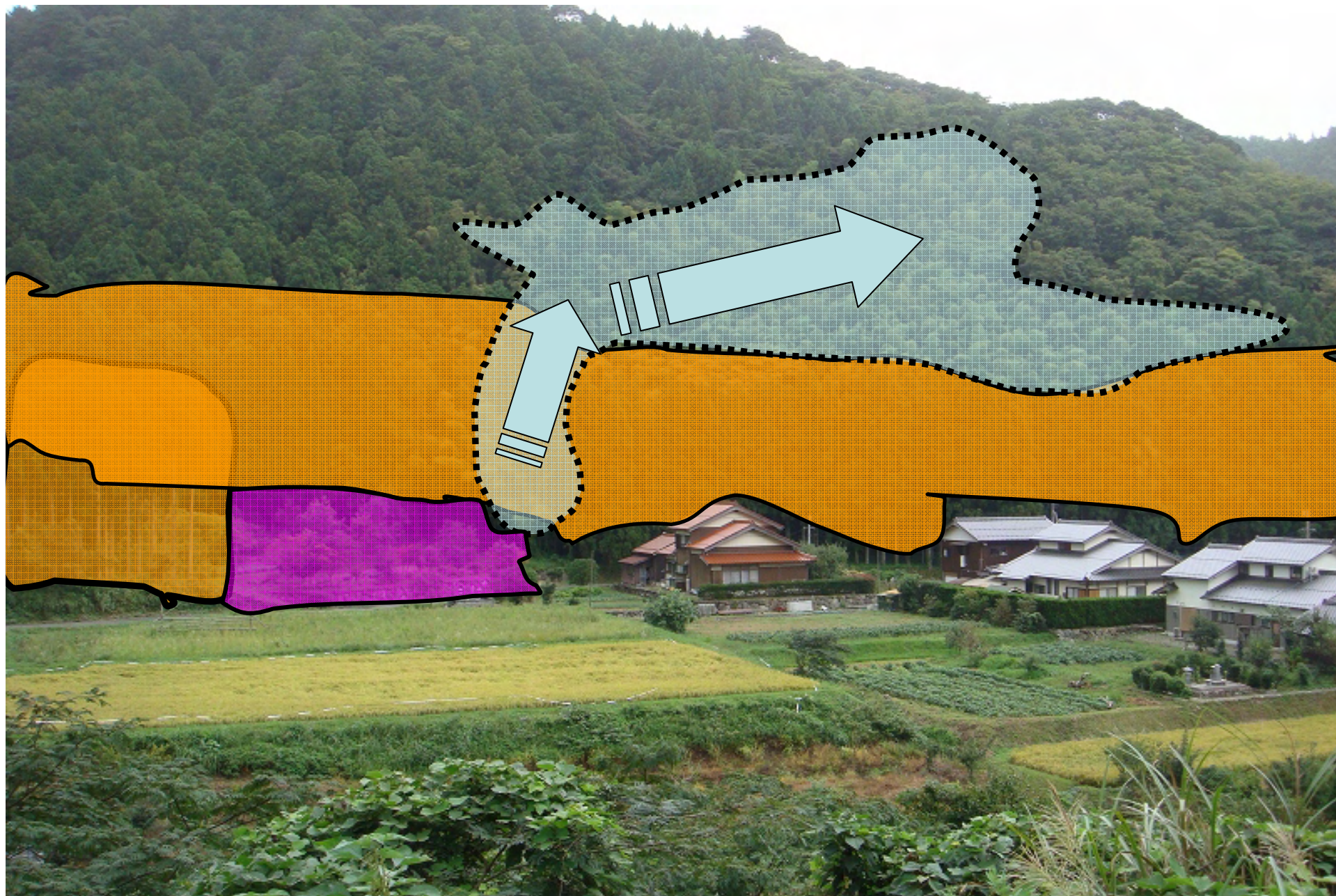
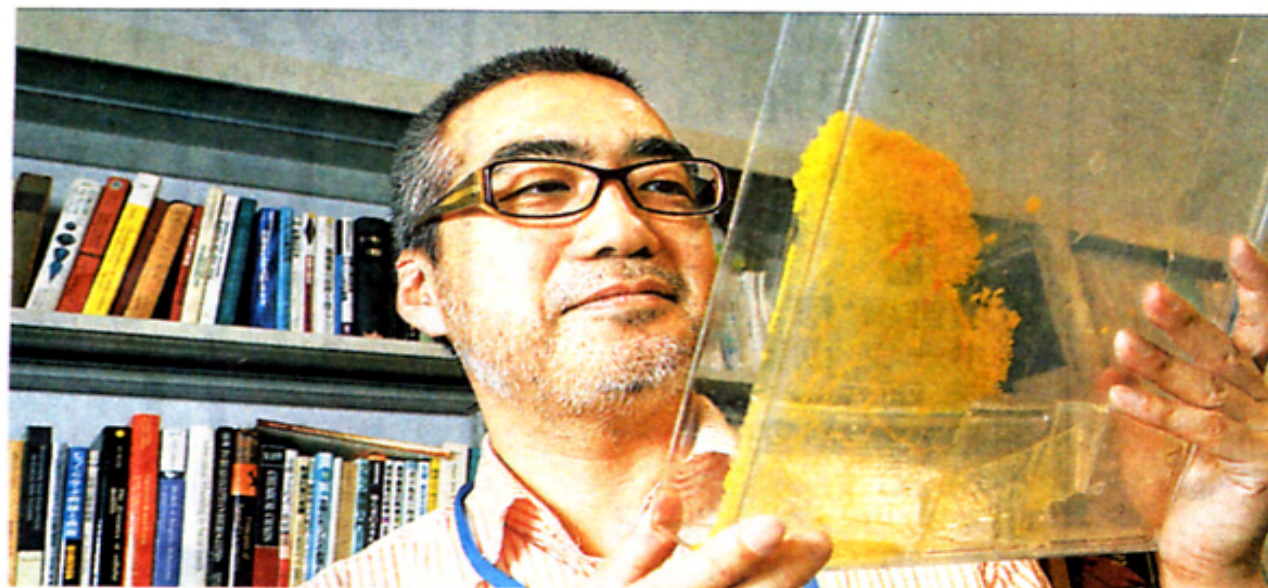




農家のすぐ裏にあった竹林が奥に広がる、スギの林クリ畑が出来る
隠岐西郷町



アメーバのように自在に変形する単細胞生物「粘菌」。その研究で、「人々を笑わせ、考えさせてくれた研究」に贈られるイグ・ノーベル賞を受賞した。

「喜んでいいのか悪いのかよくわからないが、これはシャレ」。仕事のついでに、米ハーバード大で2日行われた授賞式に出席。「日本語の

辞書では『考えの単純な人』との意味もある単細胞は、けっこう賢い」とスピーチして喝采を浴びた。

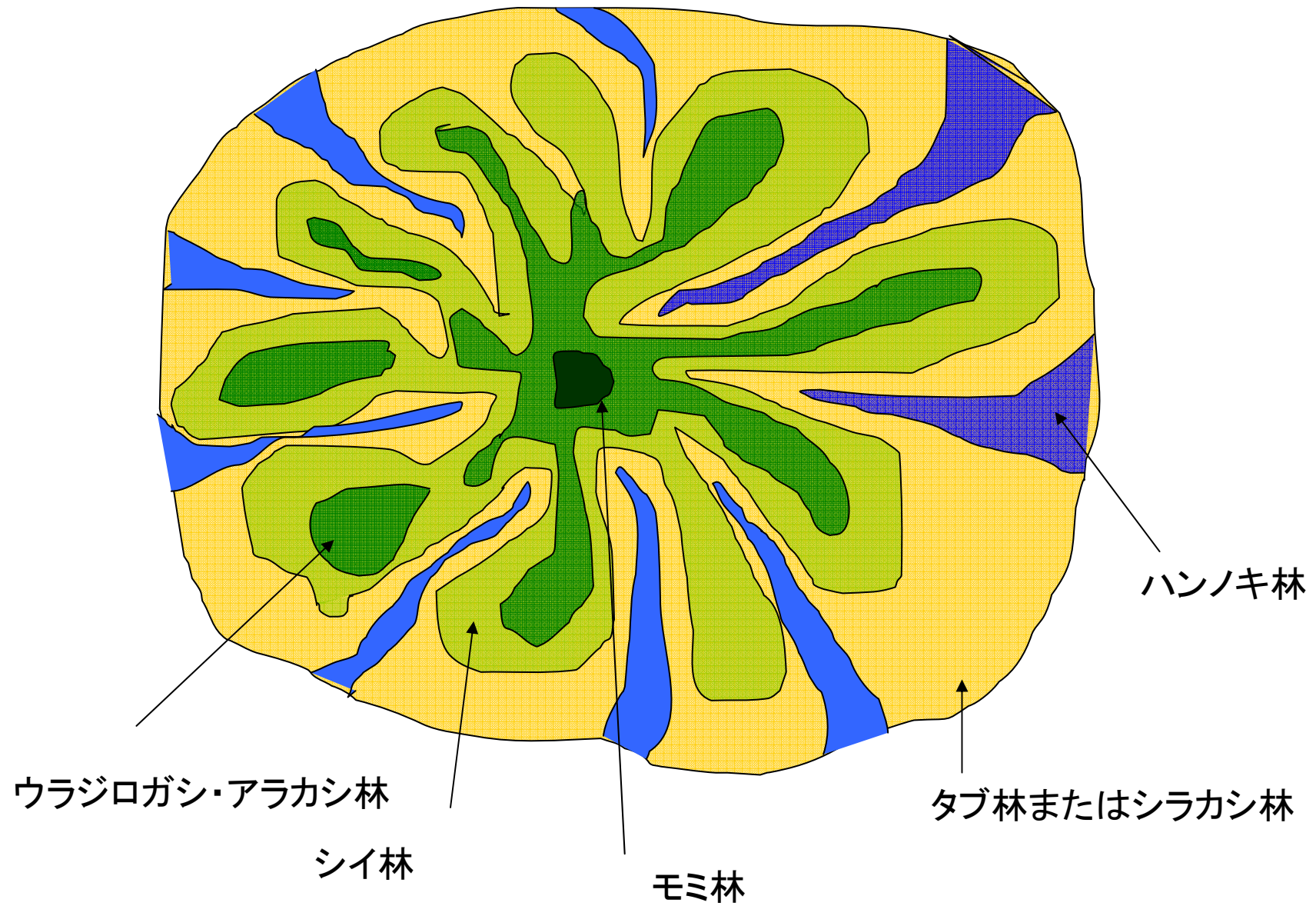
プラスチックで作った迷路の入り口と出口にえさを置く。迷路に広がっていた粘菌は、ゆっくり時間をかけて、二つのえさを最短経路で結ぶ形になった。人間でも難しい迷路の探索を、脳も神経もない粘菌がやってのけた発見が評価された。

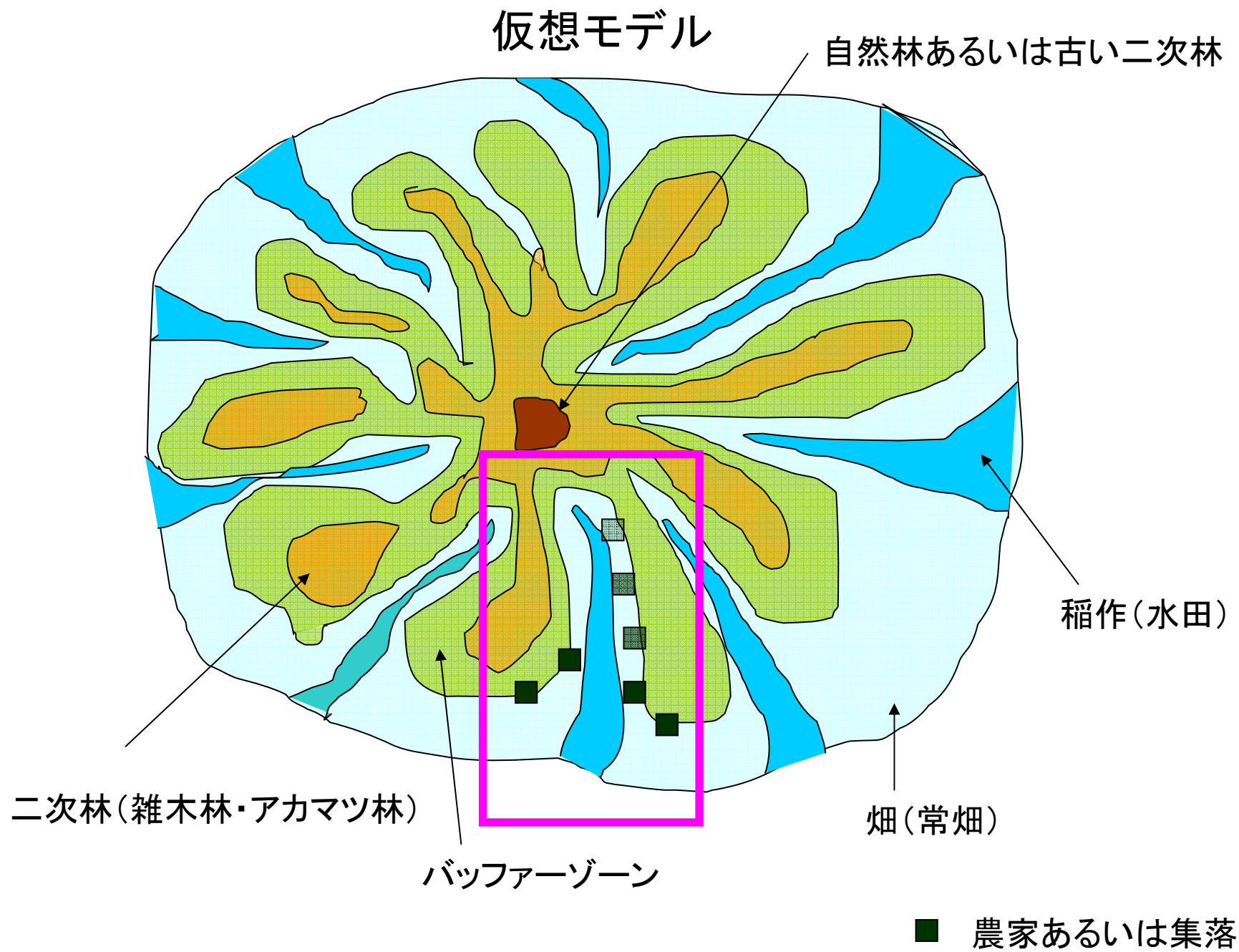
北海道大電子科学研究所の准教授。薬学部 of 学生時代に粘菌と出会った。製薬会社に勤めたが、30歳の時に「好きなことをしたい」と名古屋大大学院へ。通信制高校の教師もしながら、粘菌との格闘を始めた。

いま興味を持っているのは、迷路の最短経路を割り出す粘菌の「知恵」が、渋滞の抜け道を示すカーナビに生かせないか。単純な生き物だけに、生物の根源的な情報処理の仕組みを数学的に読み解く手がかりを与えてくれる「宝の山」という。

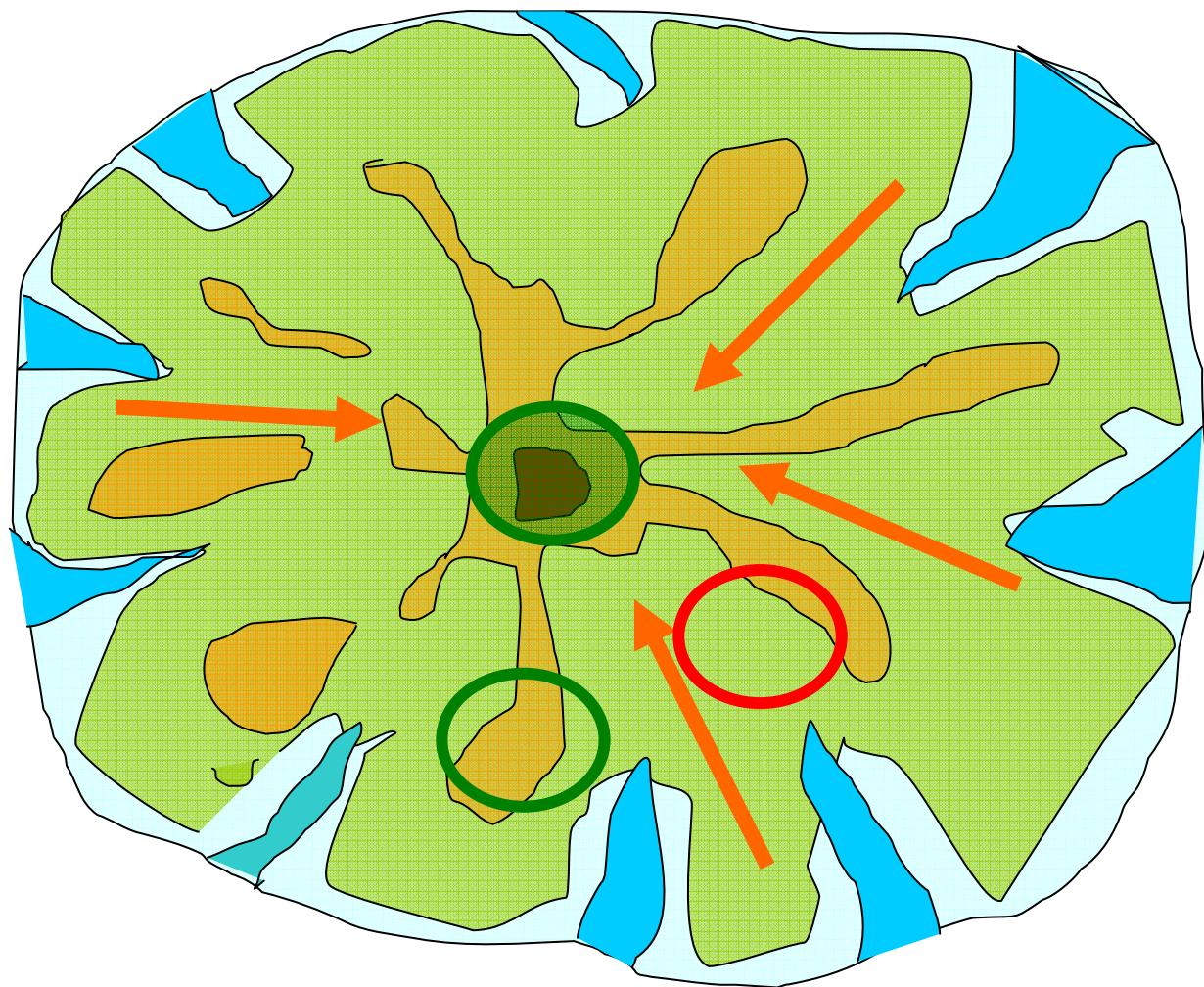
自らの専門を「すき間産業」と位置づける。「ノーベル賞のような素晴らしい研究だけでなく、『すき間産業』にもけっこうフロンティアがあると思っています」

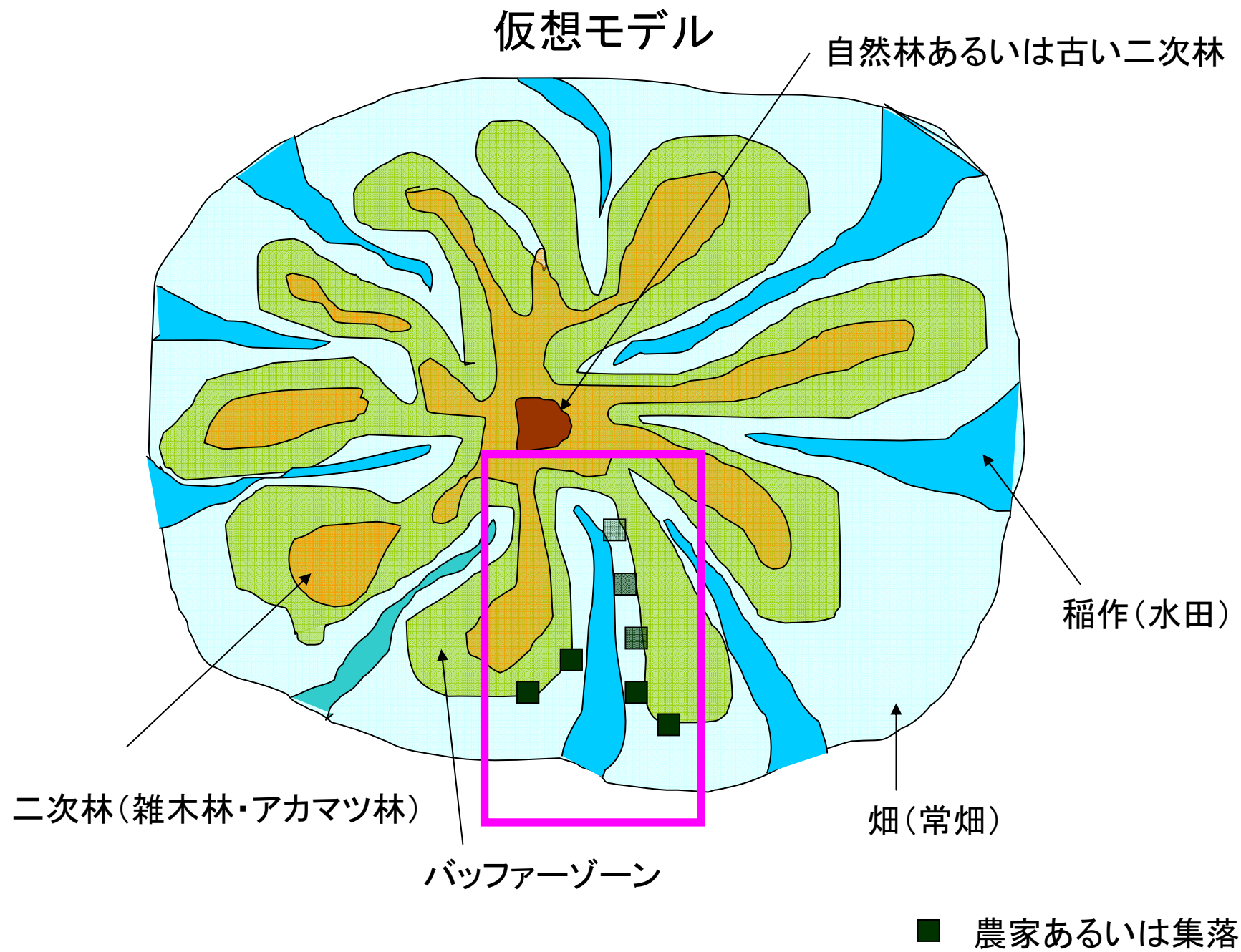
原植生



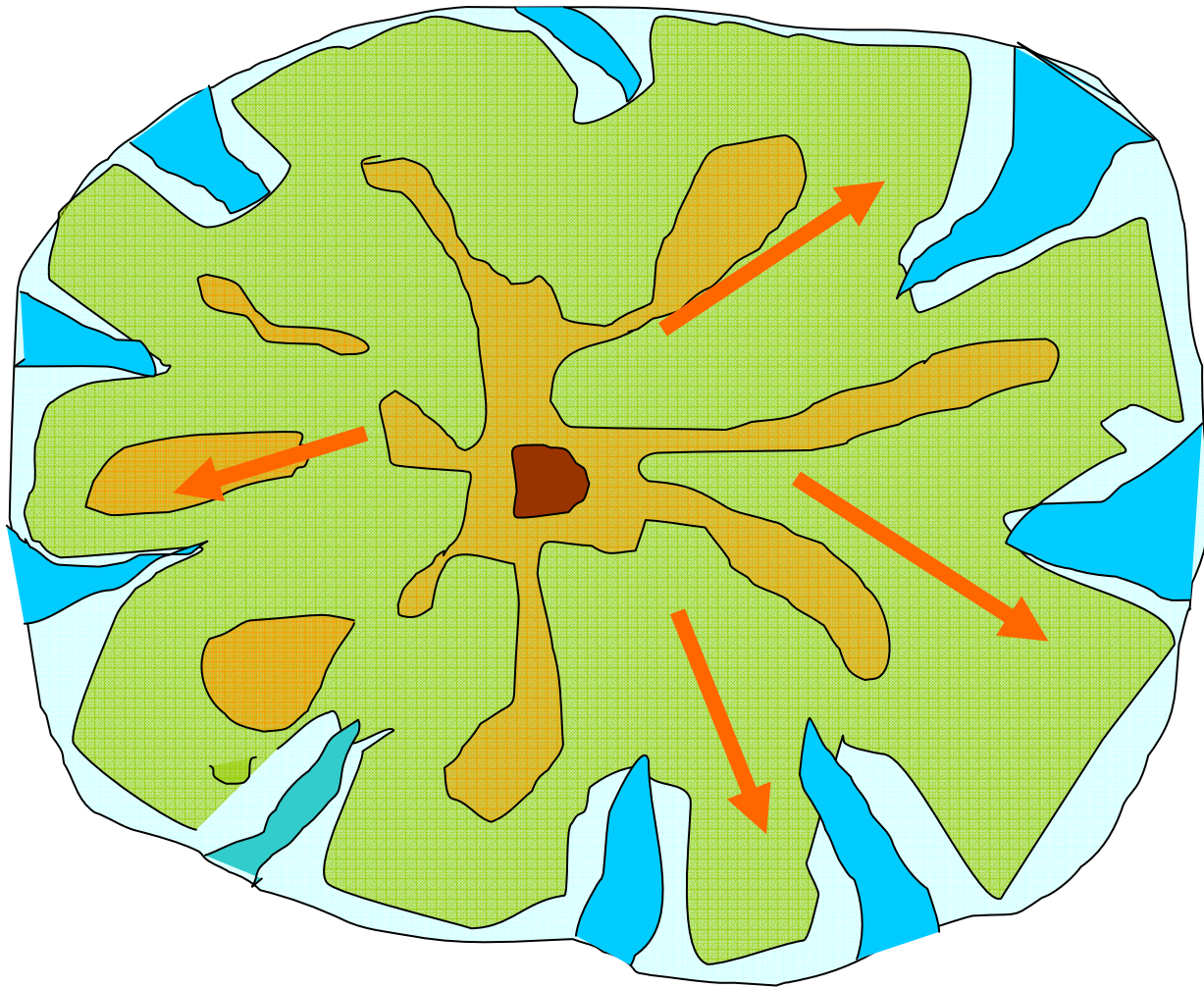


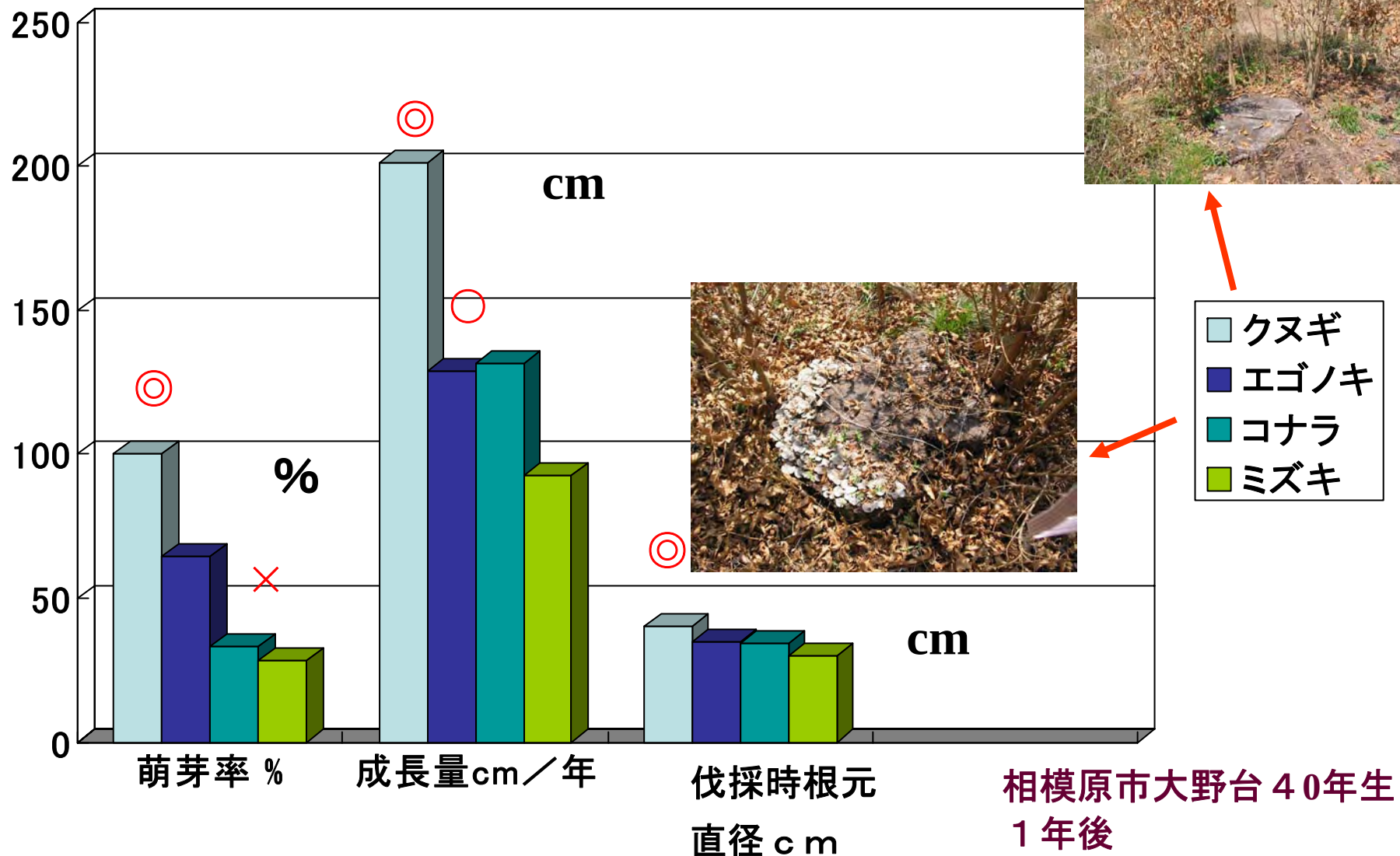
農(林)業が衰退した時代





農(林)業が衰退した時代



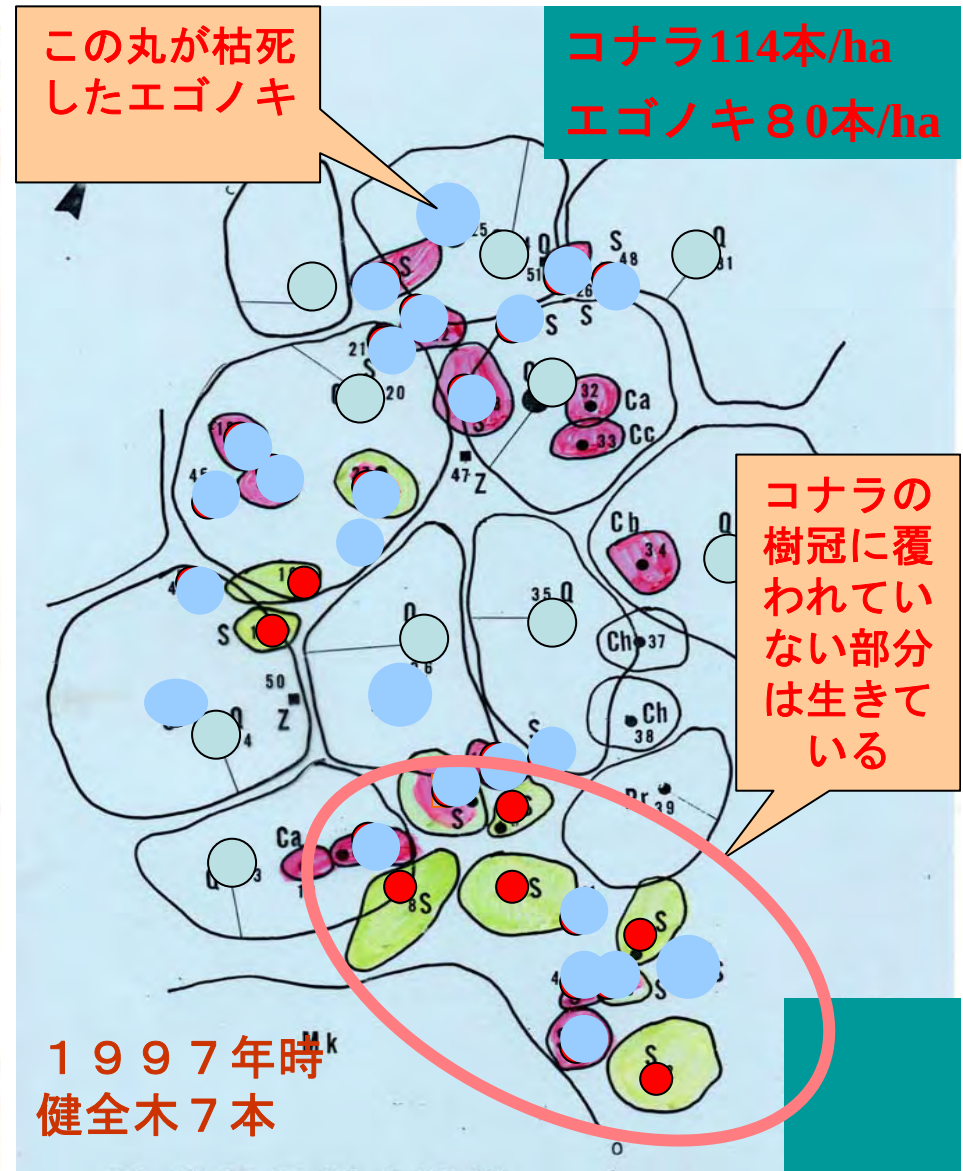


樹種別萌芽率及び1年後の成長量

コナラは成績不良、クヌギは良好

〔中川2002〕

1950年に皆伐した林分におけるコナラとエゴノキの競争（相模原



以前に生えていたエゴノキの77.4%が1997年には枯死した。
コナラの樹冠下の個体が枯れていることがわかる

市民による里山林下草刈の生物多様性増加効果

